

松山南高等学校 令和4年度「データサイエンスⅢ」論文(完成)評価用ルーブリック

ODSⅢの論文(完成)について、2～4いずれかの評価をしてください。3の記載内容を標準的なレベルとします。
特に達成度の高い、または低い項目は、それぞれ5、1と評価してもよい。

(5:他の生徒の模範となるレベル 1:全然できていないレベル)

	配点	領域	評価観点	(5～)4	3	2(～1)	取組評価	
				標準的なレベル(3)を越えて達成できた	標準的なレベル(3)をおおむね達成できた	標準的なレベル(3)を達成したとはいえない		
1	5	P (問題)	課題発見/ 目的と仮説	自らテーマを設定し、データから課題の原因を掘り下げて考え、解決すべき課題と要因のつながりを特定し、研究目的や仮説を述べている。	自らテーマを設定し、課題を捉え、それに対する研究目的や仮説が述べられている。	研究目的や仮説を述べているが根拠となるデータなどが述べられてない。 研究目的や仮説が述べられていない。		
2	5	P (計画)	データ収集	問題を解決する適切なデータについて述べられており、分析の見通しを立て、適切に根拠のある計画を立てた。	問題を解決する適切なデータについて述べられており、計画の概略をつくることができた。	利活用するデータが述べられていない、または問題にあったデータ収集ではない。		
3	5	D (データ)	データ収集	切り口を工夫し、問題発見・要因特定・問題解決につながる多面的でかつ客観性の高いデータを適切に集めることができた。	問題解決につながるデータを集めることができた。	データが収集できなかった、または収集したデータが不適切であり、問題の解決にはつながらなかった。		
4	5	D (データ)	データ整備	問題解決に適するデータ軸や範囲を採用し、比率に加工するなどのデータ整備ができた。	属性や時間別に分解するなど、問題解決につながるデータ整備ができた。	収集したデータを整備することができなかった。(生データのまま、または不必要なデータが混交している。)		
5	5	A (分析)	データ分析	データを視覚的に比較し、差異を見だして客観的な評価を可能にするなど特徴がつかみやすい図(グラフや表など)が作成でき、分析に繋がるものである。	データを比較するのに適当な図(グラフや表など)やデータを視覚的に捉えることができる図(グラフや表など)を作成することができ、分析に繋がるものである。	図(グラフや表など)を作成しているが、比較の軸が一致せず、凡例や数値が読みにくいなど、データを視覚的に捉えることが難しく、伝えたいメッセージが明確でなく、分析ができるとは考え難い。		
6	5	C (まとめ)	考察	多角的な視点を持ち、効果を検証したりするなど、有効で実現可能なアイデア(結論)を述べている。	問題解決につながるアイデア(結論)を述べている。	具体的または実行可能なアイデア(結論)が提示されていない。		
7	5		結論	問題の意味を広く認識し、結論をもとにさらに広げようとした。結論を明確に説明できた。	結論を適切にまとめることができた。	不十分な点があるが、おおむね結論をまとめることができた。		
8	5	取組状況・総合	計画・準備・実施状況	主体的かつ定期的に担当教員に執筆状況を報告・相談しながら執筆を続け、締切日に論文が完成し、Teamsに提出した。	月に1回程度相当、担当教員に執筆状況を報告・相談しながら執筆を続け、締切日に論文が完成し、Teamsに提出した。	担任・担当教員から指示があっても担当教員に執筆状況の報告・相談をほとんどせず、9/2(金)に論文が完成せず、未提出。(もしくは提出はしたが内容はなかった。)		
9	5		興味・関心	課題への高い意識を持ち、研究テーマについて仮説と検証を繰り返しながら探究できている。結論を聞くのが楽しみな研究である。	新たな課題を発見するなど、関心を持って研究テーマに取り組むことができた。	仮説に対して一つの解答を出すにとどまるなど、進んで研究テーマを深めることができなかった。		
10	5		創意工夫	これまでの先行研究や他者の取組との比較を行って独自の提案をするなど、オリジナリティのある研究ができた。	データの切り口を工夫したり、自分なりに調査を行ったりすることができた。	データや分析手法に工夫が見られなかったり、既存の図(グラフや表など)の引用にとどまったりした。		
11	5		データの出典	データの出典が明記されており、公的な機関による信ぴょう性の高いデータが用いられている。	データの出典が明記されている。	データの出典が明記されていないか、信ぴょう性の低いデータが用いられている。		
12	5		役割分担と協力	自分の役割を十分果たすとともに、他のメンバーへも貢献し、建設的な意見を出すなど、グループの研究に貢献した。	自分の役割はおおむね果たすことができたが、他のメンバーへの貢献は十分ではなかった。	自分の役割を果たせず、他のメンバーに頼りきりであった。	相互評価	
13	5		表示方法と文体	統一された表示と文体で、文章構成は論理的である。	表示と文体の統一感があり、文章構成もおおむね論理的である。	表示と文体の統一感がなかったり、文章構成が論理的でなかったりする。		
コメント								計 /60